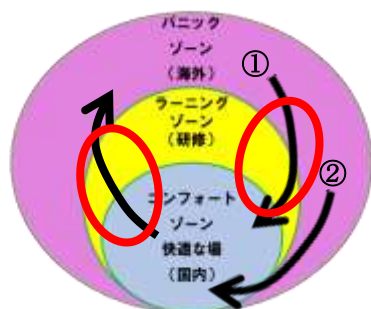


1	<p>・①の「海外体験振り返りシート」で、目標ごとにまとめた実践の中で、とりわけ在外教育施設への派遣の中で、最も印象的な出来事を「2」の欄に書いてください。</p> <p>・「2」の番号欄には、その活動の目標を下の国際理解教育の目標から選んで、番号を書いてください。</p> <p>・「知識」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの観点から、必ず入るように選んでください。最低3つの欄は埋めることになります。</p> <p>・17つの国際理解教育の目標以外に、自分が考える目標がある場合は、「その他」の欄にその目標を書いて、その番号を「2」の欄に書いてください。</p>										
	<p>◆「知識」 ①国際友好・平和 ② 文化的多様性と共通性 ③ 相互依存 ④ 正義・公共性 ⑤ 共生 ⑥ 持続可能性 ⑦ 民主主義</p> <p>◆「思考力・判断力・表現力」 ⑧ 偏見・差別・ステレオタイプを見抜く力（批判的思考力） ⑨ コミュニケーション力 ⑩ 課題解決能力 ⑪ 想像力</p> <p>◆「学びに向かう力・人間性」 ⑫人権意識 ⑬ 寛容・共感・受容 ⑭協力・協調性 ⑮誇り・自尊心 ⑯行動・チャレンジ（人生を切り開く） ⑰グローバルな意識</p> <p>◆その他（⑲ _____ ⑳ _____）</p>										
	<p>在外派遣で自分にとって最も印象的な出来事は、国際理解教育のどの目標にあたりますか</p>										
2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">番号</td> <td style="height: 100px;"></td> </tr> </table>	番号		番号		番号		番号		番号	
番号											
番号											
番号											
番号											
番号											

3	教師として、指導観・教育観は変わりましたか。もし、変わったとしたならば、帰国後どのように生かしていこうと思いますか。
4	<p>派遣中に海外で大切だと感じ、かつ国内でも子供たちに指導してみたいと思う3つの国際理解教育の目標を挙げてみよう</p> <p>① _____</p> <p>② _____</p> <p>③ _____</p> <p>では、この3つの目標を、国内の学校でどのように指導していきますか。</p> <p>① _____</p> <hr/> <p>② _____</p> <hr/> <p>③ _____</p>
5	国際理解教育の大きな目標を考えてみよう

☆派遣教員はいかに異文化体験をカリキュラム化できるか？☆



在外教育施設に派遣され、海外で仕事をするということは、国内の学校環境とは全く異なります。派遣教員が、海外体験を「まるで夢のようだった」とよく表現します。また、帰国後、自分の体験談がそれほど求められていないことに失望します。また、長い海外暮らしで、どうしても国内環境に違和感を感じることもあります。実は、海外で獲得した知識や能力を国内で生かすのは、非常に難しいものなのです。

上の図を見てください。国内という快適な場から派遣された海外では、すべてが未経験で、まさにパニックゾーンと言えます。海外派遣前には、全員が研修（ラーニングゾーン）を通過しているのに、帰国時には②のようにいきなり国内環境（コンフォートゾーン）へ戻ってきます。

全海研では、②ではなく、①の十分な研修（ラーニングゾーンの通過）の必要性を訴えています。

- A 帰国者が直面する心理的な落胆や混乱は、実は予測されることで、多くの研究が立証済みですから、客観的な知識として心の準備をしておけば、かなりリエントリーショックは軽減されるでしょう。
- B また、海外体験を国内で活用するには、在外教育施設で課題解決に追われた記憶を、改めて整理して、国内の教員にも理解できるよう教育目標から説明できるようにする必要があります。
- C 最後に、海外の教育を見聞し、その先進性に驚いたならば、それを新たな教育観や指導観として国内で発信できるように、自分の考えをまとめたり、県連情報を収集して、きちんと消化しなくてはなりません。

ここでは、Bの課題について、ワークシートを準備しました。帰国後に、少し時間をかけて、自分が海外でやってきたことを、土産話ではなく、国内実践への提案として受け止めてもらえるよう、ぜひ活用してください。

①海外体験振り返りシートを（別紙）使ってみよう。

- ・在外教育施設での教育活動の中で、帰国後報告したい印象的な実践を中央の付箋スペースに書き込んでみよう。
- ・もしも、スペースが足らなければ、自分で付箋を用意して書き足してみよう。
- ・書き終えたなら、自分の実践が周りにある17の国際理解教育の目標のどれを目指していたのかを検討してみよう。目標ごとに、付箋をまとめてみましょう。
- ・17の国際理解教育の目標は、「知識」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの観点ごとに分かれています。3つの観点にまんべんなく、自分が選んだ目標が含まれているか確認してください。もしも、ひとつの観点でも欠けているなら、その観点について自分の実践をさらに深く振り返ってみてください。

②国際理解教育の目標シート（別紙）を使って、国際理解教育の目標から国内で新たな実践を提案しよう。

- ・①の「海外体験振り返りシート」で、目標ごとにまとめた実践の中で、とりわけ在外教育施設での教育活動の中での、印象的な出来事を「2」の欄に書いてください。
 - ・「2」の番号欄には、その活動の目標を下の国際理解教育の目標から選んで、番号を書いてください。
 - ・「知識」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの観点から、必ず入るように選んでください。最低3つの欄は埋めることになります。
 - ・17つの国際理解教育の目標以外に、自分が考える目標がある場合は、「その他」の欄にその目標を書いて、その番号を「2」の欄に書いてください。
 - ・自分の体験を、国際理解教育の目標として一般化することができたなら、それを実現するための3つの目標を考えてみよう。もしも、自分の指導観や教育観に大きな変化があれば、それも書き留めておこう。
 - ・最後に具体的な指導方針（こんなことをやってみたい！）（今こんなことをやっている！）を記入してみよう。
- その3つの目標の中には、今あなたの置かれた状況から国際理解教育の枠から離れることもありえます！

○帰国報告が、単なる海外見聞記から、帰国後の実践提案に変わることを祈っています。

